

野の仏ギャラリー ③1

大日如来坐像

北多久町大字多久原

光背と坐像と蓮華台が一体化しています。光背は円形の頭光と楕円の身光からなっています。頭部に円環状の宝冠があり、その上に五仏(五智)を象徴する五つの円があります。額に白毫、胸に胸飾りがあります。手は左人差指を伸ばし、右手で握る智拳印を結んでいます。天衣が両肩から腕に垂下しています。大日如来は密教の本尊とされます。

銘「サヌキ七十二番本尊大日如来」

「施主 東多久村別府町人名 同松瀬人名」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○如来は真理に到達し修行を完成した者を称します。
○白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。
○銘のサヌキ七十二番は、現在の香川県善通寺市にある曼荼羅寺です。

今月の論語

学は及ばざる如くするも
猶之を失わんことを恐る

「学問に終わりはなく、この学ぶようになさうと心懸ろしい。」

今月の帰宅放送は、東原庵舎西溪校9年の松尾菜月さんです



「多久から発信!」
SDGs ①

「自己肯定感に満ちた子ども」を育む

多久市では、9年間の義務教育期間を経て、多久を誇りに思い、たくましく、そしてしなやかに、自分の力を発揮しながら過ごせる人に成長してほしいと願っています。

そのような姿を期待するとき、本市で育てたい子どもの姿が表題の「自己肯定感に満ちた子」です。

自己肯定感に満ちた子を育成するためには、子ども達自身が「わかった!できた!」という思いを重ねていくと同時に「大切な存在」だと実感しながら、自分の明るい将来を模索できる教育環境が大切です。

現在、多久市における取組として、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した実践を展開しています。

次号からは、その具体的な内容をお伝えしていきます。



市民文芸

悲しみが希望と呼べる所まで
僕は歩いた振り向きもせず

野崎 隆幸

孫の近況聞くは楽しみ

梶原恵美子

十月にようやく涼しくなりし朝

水引草の紅牙え来

川浪 信子

収穫を終えし稲田に雨が降る

農に励みし父母浮かぶ

浦野 嘉恵

三十年来 友誼給いし孔女史は

論語碑に文字 遺し近かれぬ

尾形 節子

秋蝶の影を地上に落しけり

おおよはな

石に座す 吾の周りを秋の蝶

武富 律子

行く秋や ハガキ一枚ポストまで

中嶋 清子

図書館の延長時間 秋灯

富樫 明美

引出しに母の文あり 秋深し

本村 則子

最高の味です母の握り飯

田中 正春

選挙カースピードあげた

田舎道

大波も去ってさざ波老夫婦

三塩不二子

天国はどんなところかと空見上げ

古賀 弘子

フオークダンス 湿る手のひらひた隠し

松下 修

愛

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》